

“次世代型”は高速・高分解能

ダックエンジニアリング 検査システム「Prenity」実装開始

ダックエンジニアリング（京都市南区上鳥羽大柳町、水上好孝社長、**云**）はこのほど、高機能型新検査システム「Prenity（ブレニティー）」の開発を発表。最大毎分500枚の高速検査を実現したロールラベル用全数検査装置「ハイパードックるん」に実装して、1月の「コンバティングテクノロジー総合展2020」で披露した（3月1日号既報）。同社では今春から、随时ブレニティーとハイパードックるんの出荷を開始していく。

全数検査システムとしてダックエンジニアリングはこれまで「Symphony（シンフォニー）」「Trinity（トリニティー）」を開発。今回発表した第三世代のハイドウエア「ブレニティー」は、画像処理技術が向上した上位モデルと位置づけたもの。

特徴は、毎分500枚の高速搬送に対応して最小0.14ミリの検出分解能で全数検査を実現した点。1000枚巻きのロールラベルの検査を約2分で処理する能力を持ち、人手が不足する生産現場の省力化や効率化を支援する。

加えて、これまで検版機でオフライン検査を行っていた本印刷前の刷り出し検査は、ブレニティーの運用により印刷機上でのインラ



毎分 500m の超高速で搬送するラベルの全数検査も可能

インでの刷り出し検査が可能な。従来のトリニティーを運用した場合に比べて、同社では「工程全体の要時間は約6分の1に圧縮できる」と説明している。

ダックエンジニアリングはこれまで「Symphony（シンフォニー）」「Trinity（トリニティー）」を開発。今回発表した第三世代のハイドウエア「ブレニティー」は、画像処理技術が向上した上位モデルと位置づけたもの。

特徴は、毎分500枚の高速搬送に対応して最小0.14ミリの検出分解能で全数検査を実現した点。1000枚巻きのロールラベルの検査を約2分で処理する能力を持ち、人手が不足する生産現場の省力化や効率化を支援する。

像処理能力は毎分500枚とトリニティーの3.7倍。将来的な環境の変化もにらんで高速化対応を進めた

—ハイパフォーマンス「とは言え市場の主流はカモ」を用意。車で例え

多品種少量、ここまで高速を必要としない場面もある。その用途にはシンプルなスポーツカーにも乗りた

りが、イーカモのようなコンパクトカーへ気軽に乗りたい場面もあるだろう

「今回のブレニティー発表は、お客様の選択肢を増やす措置とも言える。ト

リニティーも引き続き提供

するので、『品質対効果』

として自社に最も適した検査システムを無理なく選択

得るか期待している。引き

続、われわれはラベル業界の発展に貢献していく

—経緯は 提供開始に際して担当者との一問一答は次の通り。
—コンセプトは

『人手不足環境の改善』と『検査品質と生産効率の向上』をコンセプトとし、検査工程の高速化で印刷会社の利益確保を下支えすることを目的とする

「凸版方式以外の印刷機で毎分数百枚レベルは決して珍しくない。いつからラベル印刷に降りてきた場合、検査工程がボトルネックになる。ブレニティーの画

像処理能力は毎分500枚とトリニティーの3.7倍。将来的な環境の変化もにらんで高速化対応を進めた

—ハイパフォーマンス「とは言え市場の主流はカモ」を用意。車で例え

多品種少量、ここまで高速を必要としない場面もある。その用途にはシンプルなスポーツカーにも乗りた

りが、イーカモのようなコンパクトカーへ気軽に乗りたい場面もあるだろう

「今回のブレニティー発表は、お客様の選択肢を増やす措置とも言える。ト

リニティーも引き続き提供

するので、『品質対効果』

として自社に最も適した検査システムを無理なく選択

得るか期待している。引き

続、われわれはラベル業界の発展に貢献していく